

## 第62回舞踊学会大会概要

### 「日本伝統舞踊の舞と踊りの技法」

2010年12月4・5日（日本大学芸術学部）

#### 大会概要

第62回舞踊学会大会は12月4日(土)と5日(日)の2日にわたって東京江古田にある日本大学芸術学部を会場として開催された。会場校はちょうどキャンパス整備事業を終えて江古田の街と一体化した〈芸術総合学部〉として生まれ変わったばかりであり、そのリニューアル記念事業の一環として本大会の後援を得られることになった。会場として落成したばかりの演劇学科小ホールや最新の機器を備えた映像教室を、また交流広場会場としてやはり新築の学生ホールを使用することができたのは幸いであった。

今回の大会テーマは、長年にわたり日本の〈踊り〉の始源を追究してきた吉川大会実行委員長の問題意識から出発し、これに〈日本舞踊〉の成立過程を研究してきた丸茂大会担当理事の提案が加わる形で「日本伝統舞踊の舞と踊りの技法」と決定した。

#### 一般研究発表

一般研究発表は当初4日に6本、5日に14本の計20本が予定されていたが、発表者の都合により4日の発表が一つ中止となり、前掲プログラムのようになった。

#### 大会企画

大会企画初日は日本舞踊の基本形を確認するため、座敷舞と歌舞伎舞踊の双方を兼ねる山村流を取り上げた。まず古井戸秀夫氏の基調講演「大阪の舞踊－山村流の舞と踊り」によって山村流の概略と特徴を示し、ついで現六世宗家山村若氏が登壇して《上方舞の中の舞と踊りの動作の様式》と《次世代への伝承方法》を実演を交えながら報告した。さらに同氏によるワークショップが行われ、所定スペースを溢れる多数の参加者に対し日本舞踊の基礎が手ほどきされた。

二日目は「舞踊の核動作」をテーマにシンポジウムが行われた。まず吉川周平氏による基調講演「民俗舞踊における舞と踊りの核動作」は日本の民俗芸能に見出される踊りの基本動作の報告であるが、それは単なる特徴の提示ではなく、人間はなぜ踊るのかという基本的な問題にかかわる提題でもあった。ついで古井戸秀夫氏による報告「伝統舞踊の核動作」は舞楽・能・歌舞伎・日本舞踊の核となる動作をビデオ映像を見せながら示した。さらに野村伸一氏は「韓国巫俗舞踊のチュムサウ

イ（舞型）とその事例」と題して日本と文化的近隣関係にある韓国の民俗舞踊の原型ともいえる巫舞について、半島内での地域的差異をも示しながら映像とともに報告した。その後尼ヶ崎を司会にパネリスト全員で全体討論を行った。

#### 総会と交流広場

4日の大会企画総会終了後、2010年度の舞踊学会総会が行われた。その後、恒例の交流広場が真新しい食堂棟1階の学生ホールで催された。

（文責 尼ヶ崎）



お話と実演「上方舞の舞と踊りの技法」



ワークショップ「山村流の手ほどき」



シンポジウム「舞踊の核動作」

- 第62回舞踊学会大会実行委員会  
<委員長> 吉川周平  
<副委員長> 尼ヶ崎 彬（担当理事）  
<委員> 小林直弥  
          島内 敏子  
          丸茂 祐佳（担当理事）  
          森 立子  
          渡沼 玲史